

日刊 磐城時報

編輯人 岡田弘成
印刷所 磐城時報印刷部
發行所 磐城時報社
電話 二二二
代金 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 行字一文字五文 五字一圓 十文字一圓五角 二十文字一圓八角 三十文字一圓一角 五十文字一圓五角 一百文字一圓八角 二百文字一圓一角 三百文字一圓五角 四百文字一圓一角 五百文字一圓五角 六百文字一圓一角 七百文字一圓五角 八百文字一圓一角 九百文字一圓五角 一千文字一圓一角

湯本區議選舉

正式出馬十四名

選舉期日切迫に隨ひ 猛烈な競走を展開

湯本區議員選舉は愈々十月一したわけである。更に一兩日中日執行される筈で余す處五日には三四名の候補者が現はれる後に迫つたので候補者も續々名見込みで大激戦を豫想されてる。乗りあげ猛烈な運動が行はれるため平署では警戒厳重にしてゐるが、二十四日まで出馬を

政友首脳部 留任と決定

星辰吉、片寄金作、小野亮、箱崎義一、若松孝平

石城政友部會では既報の如く補選で敗戦の憂目を見たので、部會長木村清治、幹事長井上茂作の兩氏は責任を負ひ辭任した。これに對策として二十三日午後一時から平町大村屋旅館で幹部會を開き協議した結果満場一致で留任報告に決し兩氏に交げた金澤其藏氏は二十三日出馬したところ留任する事となり、辭退し定員十二名を二名超過圓滿解決した。

四倉漁業關係者の 紛擾圓満解決

角網と漁業組合長が毎年 小舟漁業者に四百圓支出

四倉濱の小舟漁業者五十名は出し内紛を續けてゐたが、二十日坂本嘉兵衛氏經營の角網並に四三日午後一時から四倉漁業組合倉漁業組合の大型漁船に對し漁事務所樓上で關係者の協議會を場を荒されて困ると苦情を持ち開き

在郷軍人 武術大會

在郷軍人分會福島支部主催銃劍術大會は二十四日午前七時半より平町警城中學校講堂で開催

結果左の如き成績で明治神宮競技參加選手は銃劍術正員星健吉(若松)豫備員加藤進(安積)軍刀正員丹治友二(福島)豫備員鈴木博(福島)に決定した、結果左の如くである。

江名の盛厚丸 秋刀魚の大漁

石城七濱活況

石城郡江名町秋刀魚漁船盛厚丸の事となり其筋に復活の申請を釜石沖で秋刀魚二十萬本を漁す事になった。尚ほ福島市には釜石沖へ歸港中である旨二開かる、縣醫師會大會には石城郡醫師會會長酒井國三郎、代議員十四日朝江名漁業組合へ無電が郡醫師會會長酒井國三郎、代議員大森勇、清水廣政外二氏が出席し、その結果である。

臨時總會

石城產馬畜産組合は三十日午後九時から平町事務所で臨時總會を開き八年度豫算更正並に罷退職した技手七川保徳氏に二百五十圓を贈呈する件を附議する。

川部の火事

川部村大字山玉打越三八農加茂松吉方から二十四日午前十時頃火災発生、原因は暖爐の火の不始末である。

馬貧血病

三阪村大字下三阪小田二九農業者阿部忠男氏の九歳牝馬は二十四日傳染性血病と決定撲殺された。

阿彌陀堂修築

石城郡内郷村白水地内阿彌陀堂は最近屋根その他修理の必要に迫られたので修理方について沼田村長、管理者赤土顯成寺住職、壇從總代大越治七氏外五名から赤土知事に申請中であつたが、縣土木課から佐藤技師が來郡沼田村長外關係者の案内で現地調査並に設計の下準備に着手した。

稲荷山で賭博

湯本町三箇稲荷山上で二十三日午前十時頃賭博村藤原蛭田兵衛(二〇)外四名が花札賭博開帳中平署員に踏み込まれ一網打盡捕はれた。

トロで死亡

内郷村大字町田磐城炭礦支柱夫設樂力三(二七)は去る二十一日午前七時から暮の内に至る道路改修工事から暮の内に至る道路改修工事から連日三十五名の入夫が出動し、前者は工程の二分通り、後者は三分通りの進捗を見た、また國頭町田坑で入坑作業中トロに轢かれ重傷を負ひ加療中二十五日午前三時死亡した。

神社の古木に落雷

自動車ポンプ出動

翌朝まで燃え續く

夏井村大字菅波大國神社境内田萬次郎方に二十三日午後八時、杉の古木に二十三日午後七時落雷の中央部から落雷したもので、雷幹の中央部から自動車がポンプが出たは感電即死した。

少年惨死

電燈に落雷

鹿島村大字三澤字藥師下農業吉開き各種の協議を遂げたが、事件は悔悟の意志を認め之を容れ

片岡醫師が要求した 健康保険醫復活問題

郡醫師會で容認と決定

石城郡醫師會理事會並に評議員に違反行為があつた廉によつて會は十九日、二十三日の二回に健康保険醫の資格取消された植垣松本樓、マルトモホールに田町醫師片岡章氏の復活要求の道側溝工事は入夫一日二十五人かかれ重傷を負ひ加療中二十五日午前三時死亡した。

平の救濟工事

平町

の失業救濟工事は現在三ヶ所一齊に行はれてゐるが、内郷土地内小學兒童通學道路及び四軒町から暮の内に至る道路改修工事

豆腐屋の雇人横領

宮城縣伊具郡角田町角田一九一
生れ四倉町本町居住無職最上吉
次郎(三七)は三月中旬平町立町
豆腐屋鈴木友治氏方に雇はれ中
七圓余を横領費消した外豊間、
江各方面で横領を働らき二十四
日平署に捕はれた。

感想と隨筆

愛兒を失ふ

千代田生

子供を失つたことのない人
は此の氣持は判り得ないと思ふ
判り得ない此の氣持こそ即ち死
に對する常時の覺悟が誰しも持
つてゐるものでない証であらう
自分ばかりでなく他にも是以上
の不幸な人々もあらう、運命で
あり、定命であるとは思ひなが
らも、子の場合は之等の例を相對
的に考へても決して諦のつくも
のではない、其處に理屈以外の
何物かあるのだ。

長女の死によつて人生最大の
悲慘を体験した、そして之によ
つて自分を之迄に育て、呉れた
親の苦心がはつきり判つた氣持
がする、子を以て知る親の思も
此の悲境に立つて初めて其の偉
大さが判る。

吉田松蔭の

「親思ふ心にまよる親心
今日のおとすれ何とぞきくらん
其の心持よりも、それを廻く
親の悲しみは子として考へ及ば
ない大きな悲しみがあるのだあ
る。」

死の悲しみ
亡くなつた長女は時折風邪を
ひいた、けれ共翌日の夕方迄に
は始と治る風邪であつた。
春とは云ひ乍ら未だ肌寒い四
月八日櫻のつぼみも漸くふくら
み初めた頃長女は床に就いた、
例の通りすぐ癒るものと思つて

居たが、二日過ぎても癒らない
三日すぎても起きて呉れない、
そして櫻も散り果て藤が盛り
に咲き亂る、頃三十五日目で死
んで行つた。
五歳になつて居た長女ではあ
つたが、父である俺に苦痛を訴
へ乍ら死んで行つた、死期に至
つて迄、その苦痛を父の力で癒
せるものと思つて居たのがい
らしいけれ共腑甲斐なき父では
あつたが爲に、苦しみを訴へら
れるのを聞き乍ら只うろたいて
居た。

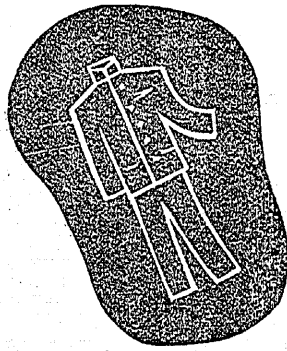
平町人事

出生

三町目一二鈴木四郎二女智子
親治町二五酒井政之助四男信
一死亡
一町目一二森下ミツ子(五三)
六町目五東修祐(一五七)三町
目三〇双葉郡富岡町小濱驛九
二高橋末松(五〇)

鼻の薬「チクノール」
山野邊薬局

黒小倉通學服賣出



多服の御用意をなさいましたか
弊店は御満足の頂ける黒小倉を
澤山取揃へ特價にてお務めて
おります。

小学生用(長ズボン付)
A.....90.00
B.....110.00
特製品.....250.00
中学生用
特製6號.....350.00
御註文(特上).....650.00

ふかや洋服店 平三 電283

綿とふ

夜具地
●秩父銘仙 極上白綿
●死 極上白綿
●紡 赤綿
●各種 赤綿

店服吳井三

綿と...夜具地大廉賣

滋養、強壯劑として愈々好評
偉大なる薬酒「栗守酒」
朝の一盃は精力の源泉、晩の一盃は睡眠の助力
栗守酒特約店 大平屋薬店
代價八日分壹圓九十銭 平町一丁目(電四六二)

耳鼻咽喉科 門專

氣管食道科 門專

病室完備：自炊の便あり
平町南町 大和田醫院
電話一七〇番

胃腸病科 門專

性病科 門專

松村 性病科 胃腸病科
院醫科 (番七〇一電 町南町平)

かまぼく 製造

折詰仕出し

た惣菜用 さつま揚 吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

吉田眼科病院

平町紺屋町 電話六八番

磐城名物 北海屋のもち餡

御進物用箱入 一金二十錢ヨリ
餡は昔から腹薬と云ひ傳はつた程
滋養の多いものですから、胃腸の障害多き
夏の召し上り物としては最も理想
の御菓子であります。暑中でも他の菓子類
と異り、湿りや腐敗がないから皆様から多大
の歓迎を受けて居ります。殊に箱詰は
絶対腐敗しませんから御安心の上
御進物として重寶であります。
平町二丁目
北海屋製菓部 電話三八八番

蒲鉾製造開始

氷水賣出中は特別の御引立に預り有難く御
禮申上ります
本日より例年の通り蒲鉾製造を開始しまし
たから倍舊の御引立を願ひ上げます
かまぼく、折詰仕出し
御惣菜用 さつま揚、吉原揚
平町二丁目
藤市蒲鉾店 電話三〇五番